

聖木曜日・主の晩餐の夕べのミサ

福音朗読 ヨハネ 13・1-15

2024.3.28 19:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日わたしたちは、復活の主の過越の聖なる三日間の第一日目として聖木曜日の主の晩餐の夕べのミサをご一緒にお捧げしています。

今日の午前中にはカテドラルで聖香油ミサが大司教様を中心に捧げられました。その時には一年間で各教会で使われます三種類の油の祝福、祝別を初めとして、また司祭職の約束の更新がありますので、たぶん一年で一番多くの司祭たちが共同司式をいたします。

そういう中で、わたしも行きまして、久しぶりに会う人、いつも会ってるんだけどその機会にも会う司祭たちに会いまして、「元気にしているか」とか、それぞれを労わり合うと言いましょうか、「また痩せたんじゃないの？」なんて言われたりとかして、心配してくれるわけです。そういう仲間がいてほんとに良かったなあと、つくづく今日のごミサの中で感じる事ができたんです。

ところが一方でわたしはどうかなあ、周りの人の、他の司祭たちの、仲間のそういう苦労とかを思い遣るよりも、むしろ自分の今の抱えている仕事とか、自分の大変さということだけにいつも心が向いているのではないかなあという反省をしました。やっぱりお互い会ったときに、相手のことを「元気かなあ」と思い遣るといっか、そういう者にわたしもなって行きたいと改めて思いました。

今日の福音の中でイエス様が互いに足を洗い合うようにとおっしゃいました。これは象徴的な動作ですけども、仕え合うとか愛し合うと言えれば何か大袈裟のような感じがしますけども、まずはそれぞれの人生を歩んでいるみんながそれぞれ担っている重荷を思い遣りながら労わり合う、そういう気持ちを互いに持つということへの招きなんではないかなあと思います。わたしたちの中にいつもいてくださるイエス様の心をわたしたちも、というか皆様はすでにそうなっているかもしれないので、わたしも、イエス様の心にいつも触れ直しながら、他の人を労わる、それぞれが抱えている重荷を思い遣る者になって行きたいという思いを新たにいたしました。

これから、イエス様がいつもわたしたちと一緒にいて、わたしたちのそれぞれの人生の歩みを労わってくださっていることを思い起こしながら、そしてわたしたちも同じような者になりたいという希望を新たに、洗足式を行って参ります。わたしたちの中にいつもイエス様の心があり、そして導いてくださる希望のうちに、洗足式そしてこのごミサをお捧げしたいと思えます。